

丸暗記なんかもういらない！

小中学生から大人まで
‘かんたん’ だけど ‘ぜったい’ に
役立つ英単語の覚え方

英単語の覚え方 5つのポイント

初版 2015年11月23日 編著者 小野村 哲



● 認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所

〒305-0047 茨城県つくば市千現1-13-3 PGR 502号

TEL 029-856-8143 FAX 029-896-4035

E-mail rise@cure.ocn.ne.jp URL <http://rise.gr.jp/>

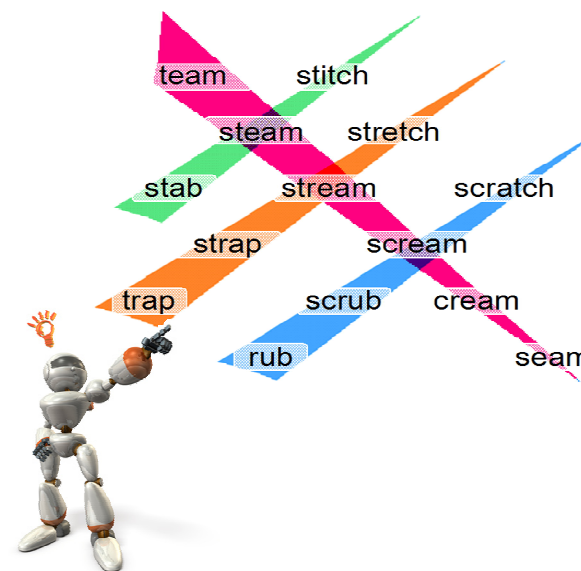


○ この冊子は、非営利目的に限り自由に利用できます。ただし、そのままプリントアウト、コピーをする場合に限られます。部分利用等は含まれません。

○ 利用の際は必ず右記サイトをご確認下さい。 <http://www.bunka.go.jp/jiyuriyo>

英単語って
こんなに ‘かんたん’ だったんだ！

英単語の覚え方 5つのポイント



● 認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所

◆ 目 次 ◆

ポイントⅠ 「音の足し算・引き算（音韻操作）」に慣れる	P 1
ポイントⅡ 暮らしの中で学ぶ	P 3
ポイントⅢ 音と意味の関係に気づく	P 5
ポイントⅣ 語の成り立ちとスペリングのパターンを知る	P 7
ポイントⅤ 意味を丸暗記しない	P 9
まとめ	P 11

◆ 表紙の単語について ◆

各グループの単語に共通する部分を確認しましょう

グループ 1 team - steam - stream - scream - cream - seam

- ・ここでの ea は「イー」と発音されます。

グループ 2 stab - steam - stitch

- ・ここでの st- には「スツと」という意味合いがあります。

グループ 3 trap - strap - stream - stretch

- ・tr- には「引く、取引する、交通」、str- には「伸び、張り、強さ」という意味合いがあります。

グループ 4 rub - scrub - scream - scratch

- ・scr- には「カリコリ」「キーキー」という意味合いがあります。
rub と scrub の「こすり方」の違いを確認しましょう。

のままでは英語としては使えませんが、重要なヒントを私達に与えてくれます。これらの強みを生かせば、5,000語くらいのボキャブラリーを身につけることは決して難しいことはありません。

最後に…。英語は一度にまとめて勉強するより、少しずつでも毎日繰り返し練習することが大切です。<http://rise.gr.jp/> では「RISE English Course 英単語カレンダー：入門編」を無償公開しています。入門編とはいっても、英検2級レベルの単語まで織り交ぜて、小学生から高校生や大人まで無理なく学べるように工夫をしています。専用アプリでは発音を聞いたり、タイピング練習もできます。このカレンダーを目につく場所に貼るなどして、短い時間を有効に利用しましょう。皆さんの英語学習に役立てていただけたなら幸いです。

part	=	part	: 部分
part + y	=	party	: パーティ、党
de + part	=	depart	: 去る
de + part + ment	=	department	: 部門
a + part + ment	=	apartment	: アパート

※「RISE English Course 英単語カレンダー：入門編」、専用アプリのダウンロードはこちらから (<http://rise.gr.jp/>) →→→

※ 英単語カレンダー：入門編 は12月末ごろ公開予定です。



編著者 小野村 哲（おのむら さとし）

1960年 東京都板橋区生まれ。公立中学校に16年間勤務、茨城県教育研修センター英語教育講座講師等を歴任の後、39歳で退職。リヴォルヴ学校教育研究所を立ち上げ不登校児童生徒の支援や講演活動を行っています。

リヴォルヴ学校教育研究所とは

設立2000年7月。不登校や学習につまずきがちな子ども達の支援や、‘子育て・子育て環境’の充実に取り組む認定NPO法人です。長年の実践と研究の成果をまとめた教材は、全国の学校等でも採用されています。

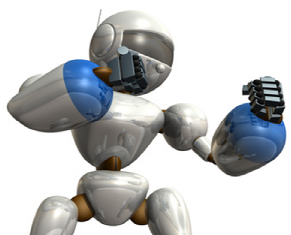
まとめ

ここまでにお話してきたことは、実は、日ごろ皆さんが当たり前のように行っていることばかりです。例えば「おにがしまにいった」という文を見たとき、私達は文字から得られる情報と場面や文脈から得られる情報を統合し、「鬼が、島に行った」のか「(桃太郎が)鬼ヶ島に行った」のかを区別して読んでいます。

バナナの皮を踏んで滑ったなら **slip**、滑り台なら **slide** など同じ「滑る」でも **slip** と **slide** では「滑り方」に違いがあることを、私達は無意識のうちに感じています。それは教えられたものでも、暗記したものでもありません。このようなイメージも、おそらくは生まれながらにもっている共感覚なのです。

私達は日ごろ様々な情報をバランスよく統合して聞いたり読んだりしていますが、「外国語学習」となるとつい肩に力が入り過ぎてしまいがちです。これこそが、英単語がなかなか覚えられない理由の1つと考えられます。机上での学習に比べて、暮らしの中での学びはより自然で、より効率的です。

しかし、母語（第一言語）として英語を身につける赤ちゃんとは外国語としてこれを学ぶ私達では、その言葉にふれる時間など学習条件に大きな違いがあることも忘れてはなりません。条件の違いを無視して「赤ちゃんと同じ方法…」というのはとても不自然です。



そこで考えられるのは、赤ちゃんにはない強みを生かすことです。その1つが文字です。音を聞くだけで単語を覚えるよりは、目と耳で覚えたほうがはるかに効率的です。たくさんのカタカナ語を知っているという強みもあります。「アパート」はそ

はじめに

例えば「キャッチ」というカタカナ語に初めてふれたとき、辞書を引いて意味を調べたり、忘れないようにと何度も書いて練習した人がいるでしょうか。なぜ英単語は、カタカナ語のように覚えられないのでしょうか。

辞書を引いてみると、**catch** は

- ① つかまえる
- ② 間に合う
- ③ 聞いて（見て）わかる
- ④ 感染する

などとなかなか面倒な単語ですが、キャッチはカタカナ語でも「ボールを取る」以外に、「情報を得る」「心をとらえる」「魚を釣る」など様々な意味で使われています。どうして英語では、カタカナ語のように柔軟な対応ができないのでしょうか？

ここでは英単語もカタカナ語と同じくらい簡単に覚えられるようにする「5つのポイント」を紹介します。このポイントを押さえて練習すれば、これまでの何倍もの効率でボキャブラリーが増やせます。

丸暗記なんかもう必要ありません。5つのポイントを押さえて、効率的に英単語力をアップさせましょう。

2015年11月

認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所
理事長 小野村 哲

ポイントⅠ

「音の足し算・引き算（音韻操作）」に慣れる

英単語は、基本的に「音の足し算」によって成り立っています。
まずは次の語を読んでみましょう。pan は「フライパン」、plant は「ブランター」でもおなじみですね。

p + an = pan : 平なべ
pl + an = plan : 計画
plan + t = plant : 植物
plan + et = planet : 惑星

今度はこちら…。ea は少し口を横に開いて「イー」のように発音するのが原則です。^{註1)}「音の足し算・引き算」をしながら、seam = sea + m、tea = team - m のように覚えていけば、少しの練習でも単語が読み書きできるようになります。

t + ea = tea : お茶
tea + m = team : チーム
s + team = steam : 蒸気
steam - t = seam : 縫い目
seam - m = sea : 海

最初の一步であり、何より大切なのが「音の足し算・引き算」に慣れることです。高校生以上でも、ここでの不慣れが苦手の根本原因となっていることが少なくありません。「わかっている」というだけでなく、p + an = pan や pan に l を挿入するなどの操作が素早く正確に行えるよう繰り返し練習しましょう。

slam も辞書では

- ① (戸などを) ぴしゃりと閉める
 - ② ドシンと置く
 - ③ 強く打つ
 - ④ 酷評する
 - ⑤ 力いっぱい投げる
- などなど…

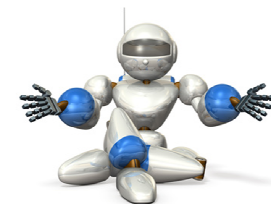
と訳されていますが、これらを無理に暗記するより、sl の音からは素早い動き、m の音からは「込められた力」をイメージできるようにすることの方がよほど大切です。remarkable などは「注目すべき」と暗記するより、語の成り立ち (re + mark + able) を確認した上で「mark すべき」や「remark すべき」など英単語を英語のまま覚えてしまいましょう。

She left (= leaveの過去形) school. なら「学校から立ち去った」とか「卒業した」「退学した」などの訳が考えられますが、そのいずれが正しいかは場面や文脈から推測するしかありません。一語一訳！徹底暗記！などと肩に力を入れ過ぎて、次のような文を

She left her umbrella on the train.
傘を電車に置き忘れた。

「彼女は傘を出発した」とか「傘を電車の‘上に’置き忘れた」などと訳さないようにしましょう。

この例文を見れば、on を「…の上に」と丸暗記することさえ問題であることがわかります。だから良い辞書の多くは、on などの語にその意味を表すイラストを添えています。辞書がとても貴重なパートナーであることは間違いありません。大切なのは、それを使うあなたが柔軟な発想を損なわないようにすること、頭を固くしないことです。



ポイントV 意味を丸暗記しない

どうして英語では **club** が「倶楽部」や「こん棒」など、1つの語がまったく違うものを意味するのか。これは英語を日本語に訳してしまうことから生じる混乱、言いかえれば誤解です。

club は本来、「くるっと丸まったもの、まとまったもの」を意味する語です。要するに「棒されの先が丸まったもの」を日本語にすれば「こん棒」や「ゴルフクラブ」、「人のまとまり、集まり」は「倶楽部」ということです。

以前、**leave** の意味を質問をしたら、「サル」と答えた生徒もいました。単語の予習を忘れた彼は、隣の生徒が「去る」と教えてくれたものを「猿」と勘違いしてしまったのです。**leave** は

- ① 去る
 - ② 退学する（卒業する）
 - ③ …のままにしておく
 - ④ 置き忘れる
 - ⑤ 残す
- などなど…

辞書に載っている訳を全部丸暗記しようとしたらとても大変です。

では、どうしたらよいでしょう。その点については、Ⅲの最後でも少しふれました。

Don't slam on your brakes when the road is wet.

という文中なら、「道路がぬれているときは、ブレーキを **slam** するな」ということですから、ここは「急ブレーキを踏むな」とでも訳すといいでしょう。しかし、あなたが翻訳家になろうとしているのであれば、**slam** は **slam** のまま、つまり「（ブレーキを）**slam** するな」でも十分です。

そこで今度は「エイ」と発音される **ai** と、同じく「エイ」と発音される **a*e** / 「アイ」と発音される **i*e** を含む語を練習してみましょう。^{註2)} 難しい（はずの）語もありますが、前後の語や単語の意味を参考にしながら読んでみたら意外と読めるかもしれません。上から下に読んだら、次は下から上にも読んでみてください。

str + ain	= strain	: ピンと張る
strain - s	= train	: 列車
train - t	= rain	: 雨
p + ain	= pain	: 苦痛
pain + t	= paint	: 絵の具
s + aint	= saint	: 聖なる
st + ain	= stain	: 汚れ
stain + less	= stainless	: ステンレス製の

ace	= ace	: 1の札
r + ace	= race	: 人種 / 競争する
p + ace	= pace	: 歩調、速度
s + pace	= space	: 場所、宇宙
sp + ice	= spice	: 薬味、香辛料
pr + ice	= price	: 価格
r + ice	= rice	: お米
ice	= ice	: 氷



- 1) **ea** は例外的に「エ」と発音される (**ready / weather** など) こともあります。「エイ」と発音することもあります。が、**break / great** など数語に過ぎません。
- 2) **ace/ice** や **use/rose** の **a/i/u/o** は、それぞれ文字の名前そのままに「エイ」や「アイ」などと発音し、語尾の **e** は発音されません。

ポイントⅡ 暮らしの中で学ぶ

ポイントⅠでも取り上げた‘seam：縫い目’に「聞き覚えがありますか？」と聞くと、ほとんどの人は「いいえ」と答えます。それもそのはずで、ある辞書では seam を英検準1級レベルとしています。

ですが、ちょっと待ってください。‘sea：海’に m を加えただけです。しかもこの単語‘seamless：シームレス（縫い目がない）’とか‘two-seam：2シーム（2つの縫い目に指をかけて投げる変化球）’で、きっと誰でも一度や二度は聞いたことがあるはずです。

私達は毎日たくさんの英単語にふれて暮らしています。その数は少ない人でも1,000語、多い人では3,000語を超えるかもしれません。その知識を生かすだけでも、5,000語くらいはすぐに身につけられます。ポイントは‘気づき’です。

今度は次の語を読んでみましょう。

seam	：縫い目
steam	：蒸気
stream	：小川
scream	：金切り声をあげる

stream までは「聞き覚え、見覚えがある」という人が多いと思いますが、scream は「初めて…」という人が多いかもしれません。

そこで一工夫！ 実は、str- は「伸び、張り、強さ」、scr- には「カリカリ、キーキー」など日本語の擬音語に通じる意味合いがあります。scream は知らなくても、‘stretch：伸ばす、広げる’や‘scratch：ひっかく’なら、聞き覚えがありませんか。そうです。

それでは、以下の語の読みにも挑戦してみましょう。ここでは大学入試レベルの単語まで取り上げています。いきなり全部をすらすら…とはいかないと思いますが、まずは何となくでも読めればそれで十分です。

基本を身につけたあなたは、自分で考えて読むことができるようになっていきます。電子辞書などで発音を確認するのも、自分でしっかり考えてからにしましょう。

opera	= opera	：歌劇（原義=仕事）
oper(a) + ate	= operate	：（機械などが）働く
oper(a) + ation	= operation	：手術、事業
oper(a) + ation + al	= operational	：操作上の
co + oper(a) + ation	= cooperation	：協力

port	+ able	= portable	：持ち運べる
reason	+ able	= reasonable	：もっともな、妥当な
re + mark	+ able	= remarkable	：注目すべき

fam(e)	+ ous	= famous	：有名な
nerv(e)	+ ous	= nervous	：不安な、神経質な
humor	+ ous	= humorous	：ユーモアのある
danger	+ ous	= dangerous	：危険な

- 5) vacuum：真空の / vacancy：空席、空室 等とともに覚えましょう。
6) -ous の ou や -ation の io などは、アクセントがないために発音があいまいになります。



ポイントⅣ

語の成り立ちとスペリングのパターンを知る

英語では **sl-** で始まる語はあっても、**sr-** で始まる語はないと言っていいでしょう。一方、‘**nation** : 国、国民 / **station** : 駅 / **vacation** : 休暇 / **variation** : 変化すること、バリエーション’ など **-ation (-ion)** で終わる語はそれこそたくさんあります。このようなパターンを覚えておけば、読み書きはずっと簡単になります。

「生まれ」を意味する **nat** に **-ion** を加えれば **nation**、さらに **-al** を加えれば **national**、またさらに「…の間」を意味する **inter-** を加えれば **international** となります。文字数が多くて難しそうな語も、**inter-** (接頭辞)、**-ion / -al** (接尾辞) を取り除けば、残るのは **nat** (語根) だけです。

nat + ion = nation : 国、国民

nat + ion + al = national : 国家の

inter + nat + ion + al = international : 国際的な

station のもともとの意味は「立って(st)いるところ」、**vacation** は「空っぽの(vac)状態」^{註5)}を意味します。‘**vary / variable / various**’なども、カタカナ語としてもなじみがある **variation** と関連づければ、ぐっと覚えやすくなりますね。^{註6)}

vari (= vary) + ation = variation : 変化

variation - ation = vary : 異なる

vari (= vary) + able = variable : 変わりやすい

vari (= vary) + ous = various : 様々な



stretch はスポーツの前後に、**scratch** は削ればその場で当たり・はずれがわかるカードでもおなじみですね。

scream のもともとの意味は「(硬いものこすり合わせるような)音や声を出す」こと。**scream** のようになじみがない語でも、

stretch – stream – scream – scratch

などのように知っている語と関連づければ、記憶にも残りやすくなります。

なるほど！ と思った人は次の単語も読んでみましょう。

stress	: 緊張、ストレス、強調
strong	: 力が強い、丈夫な
strain	: ピンと張る
train	: 列車 (原義は「引いていくもの」)
training	: 訓練 (原義は「率いていくこと」)
scrape	: こすり取る
scrub	: (たわしなどで) こする
rub	: (布、手などで) こする ^{註3)}



3) スクラブクリームと「メン●レータム ラブ」「ヴェ●ラップ」ではどのような違いがあるでしょう。あなたがもし先生なら、「薬局に行ったら、商品名に **scrub** や **rub** がつくものを探してみよう」などとするのも有効です。

ポイントⅢ 音と意味の関係に気づく

最近の研究では、地球上で暮らすすべての人々の祖先は、ある限られた地域（アフリカ説が有力）で暮らしていたと考えられています。つまり、私たちの遠い祖先も英語を話す人々の祖先も、はるか昔は同じ言葉と話していた可能性があるのです。だとしたら、日本語と英語にも似ているところが残っていて当たり前です。

もしそうでなかった — 日本語と英語はまったく別のルーツから生まれた語だった — としても、「ブー」や「バー」「キキ」などの**音から受ける印象**は世界中の人々に共通するらしいということもわかってきています。^{註4)} 例えば次の単語の意味を、音から受けるイメージだけで推測して、右と左を結んでみてください。

slap	・	・ さっと切る
slash	・	・ ぴしゃりと閉める
slam	・	・ 平手打ち

slap と slash では、slap の方が何となく「平手打ち」という感じがしませんか？ slash と slam では、どちらのほうが「ぴしゃりと閉める」にふさわしいでしょうか？ slam の m は唇を閉じて発音することにも注目されますが、ここで大切なのは「何となく」という**感覚**です。英単語は繰り返し練習してもなかなか覚えられないという理由の1つは、私達が生まれながらにしてこの感覚をおろそかにしていたためだと考えられます。

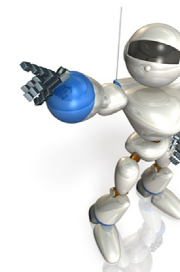
sl- で始まる語には「すっ、するっ、そろりそろり、すらり」など日本語の音にも通じる意味合いをもつ語が多いことにも注目です！

- ◆ 「すっ、さっ」など素早い動きを連想させる sl- を含む語
slash : さっと切る、斜線 / slice : 薄切り / slap : 平手打ち
slam : ぴしゃりと閉める
- ◆ 「するっ」と滑る様子を連想させる sl- を含む語
slip : (するっ) 滑る / slide : (すーっ) 滑る / sled : そり
- ◆ 「そろり、ゆるり」など遅さやゆるみを連想させる sl- を含む語
slow : 遅い / sleep : 眠る / slack : ゆるい
- ◆ 「すらり」など長さや細さを連想させる sl- を含む語
slender : すらりとした / slim : ほっそりした / slight : わずかな

slap や slam などの語を覚えるのに、ただ暗記するよりも音から受けるイメージを生かした方が記憶に残りやすいのは当然です。単語の意味も無理に暗記したりしようとせず、次のような文中なら

Don't slam on your brakes when the road is wet.

「道路がぬれているときは、ブレーキを **slam** するな」として、**場面に応じた訳を考える**のもとても自然で賢い方法です。slap や slash / slam を発音するときには、平手打ちをしたり、ぴしゃりとドアを閉めたり、急ブレーキを踏むなどの**真似、ジェスチャーをしながら練習**してみましょう。



- 4) 様々な言葉を話す人々に、丸みをおびた形と角張った形を見せて「どちらがどちらにふさわしいか」と質問すると、**98%**の人が丸みがある方をブーバと答えたそうです。このような傾向は「ブーバ・キキ効果」とと呼ばれます。